

北海道新幹線開業1周年をお祝い

津軽半島元気まつり

昨年運行を開始した北海道新幹線、奥津軽いまべつ駅と津軽中里駅を結ぶ路線バスが3月26日(日)に1周年を迎えました。当日は、1周年を記念し、津軽中里駅の駅ナカ「にぎわい空間」で「津軽半島元気まつり」が開催され、300人が来場しました。

元気まつりは、金多豆蔵人形芝居で始まり、子どもからお年寄りまで笑いながら見ていました。この公演は、東日本鉄道文化財団の助成事業による人形補修が行われてからのお披露目公演となりました。

公演終了後、来場者みんなで奥津軽いまべつ駅からの路線バスのお出迎えをしました。バスの乗客らは「こんなに歓迎されて嬉しい。いまべつ駅のイベントも楽しかったが、



みんなで笑った金多豆蔵人形芝居

中里駅のイベントも楽しみだ」と話していました。また、県内のりんご農家を応援するアイドルユニットであるアルプスおとめがかつけ、会場を盛り上げました。

他にも、権現漁火会によるよさこい演舞や中里三味線会による演奏、網おこし囃子などが行われ、来場者を楽しませました。特に、西北地域県民局から特定健診・がん検診の受診率向上を目的に作られたTシャツをプレゼントされたべえ子ちゃんのダンスでは、会場が一体となって楽しみました。べえ子ちゃんを代表して、鈴木喜代さんは「素敵



みんなで元気におもてなし

なTシャツをありがとうございます。これからいろんなところでこのTシャツを着て踊ります。みんなちゃんと検診に行きましょうね」と話しました。

最後に、起きて夢見る会の夏原謙二会長や津鉄応援直売会の佐藤イネ子さんらが、津軽半島と津軽鉄道への思いなどを語りました。来場者らは「たくさんの催しものがあったおもしろかった。活気があって、こっちまで元気をもらった。機会があればまた来たい」と話していました。



会場は大盛り上がり



中里横笛愛好会



網おこし囃子



権現漁火会



特製Tシャツを着て踊るべえ子ちゃん



振る舞いには大行列

